

拠点病院：  
高知大学医学部附属病院  
子どものこころ診療部

円滑な地域連携体制の構築  
ケース相談会・研修会の実施  
地域住民への情報提供

連  
携

医 療

保 健

教 育

福 祉

目的

発達障害、うつ、摂食障害、不登校、自殺・自傷、虐待、親の精神科的課題、身体合併症など、子ども（主に小学生～高校生）の心の診療のニーズの高い事例に早期に円滑に対応するために、県内の医療・保健・福祉・教育など関係機関が連携した専門的な地域支援体制の構築。

現状と課題

- ▶ 子どもの心の診療は、発達障害に加え、うつ、摂食障害などの精神疾患や、不登校、自傷・自殺、虐待、親の精神医学的問題、身体合併症など重要課題が多様に併存し、医療・保健・福祉・教育など多領域との切れ目ない連携が必須。
- ▶ 児童青年期の精神医学的問題は、成人期に統合失調症などの重篤な精神疾患や、ひきこもりや自殺などの行動上の問題の発生リスクが高いが、県内に子どもの心の診療を行う精神科医療機関は少なく、適切な時期に適切な専門的支援・治療につながりにくい。



子どもの心の診療ネットワーク事業

高知大学医学部附属病院子どものこころ診療部を拠点病院として県内の医療・保健・福祉・教育など多領域の関係機関が連携し、心の診療を必要とする子どもや家族が、早期に適切な専門的支援や治療を受けることができる支援体制を構築する。

① 円滑な地域連携体制の構築（心理士・精神保健福祉士の雇用）

・拠点病院に専属の心理士およびケースワーカーを配置し、拠点病院と県内の関係機関と円滑な地域連携体制を構築する。

② ケース相談会・研修会（圏域別に実施）

各圏域の求めに応じ拠点病院から精神科医、心理士、ケースワーカーを年1～3回派遣。

・ケース相談会：心の診療が必要なケースに対する専門的な支援方法の相談や助言、カウンセリング、心理検査等を、各圏域の求めに応じて実施し、地域関係者との連携協議も実施する。

・研修会：小児科医や精神科医などのかかりつけ医、心理士、ケースワーカー、保健師、学校心理士、養護教諭等を対象に、子どもの心の診療に関する最新の医学的知識や困難事例への対応などの研修会、模擬事例による症例検討会など実施する。

③ 地域住民への情報提供：ホームページの整備、市民公開講座

・子どもの心の診療に関する最新情報を、ホームページや市民公開講座などを通じて、地域住民に情報提供、啓発を行う。

・中央拠点病院（国立成育医療研究センターこころの診療部）が作成する「子どもの心の診療機関マップ」（<https://www.ncchd.go.jp/kokoro/kyotenmap.php>）のホームページに掲載許可を得た医療機関の診療内容等を取りまとめて掲載する。

- ▶ 例
- ・不登校の児童生徒（小学～高校）は増加。  
H29：1402人→H30：1654人（+252人）
- ・高知大学医学部附属病院 子どものこころ診療部初診患者（小学～高校：R元.7～12月）80名中、不登校経験は45名（児相介入5例含む）
- ・不登校になると、教育関係からの支援を受けることが難しくなるため、多領域の関係機関の連携が必要であり、不登校になる前からの支援も重要である。